

### 3. 担い手育成事業

#### (1) 越境地域マネジメント講座

##### ①事業協働応用講座（三遠南信）

文部科学省私立大学研究ブランディング事業により運営される三遠南信地域連携研究センターは、三遠南信地域を中心に越境政策に関する豊富な研究実績を有する。そこで、これまでの研究蓄積を大学教育へと還元すべく、2021年度秋学期に全学年の学生を対象とした「三遠南信の地域経営」という講義科目を開講した。

東三河、遠州、南信州からなる三遠南信地域のまちづくりに関する現状と課題をめぐって、地域政策に関する講義に加えて、行政や民間からのゲストスピーカーによる取組事例の紹介や課題解決ワークショップを通じて、三遠南信地域の課題をより実践的に理解することを到達目標とし、表1のような講義内容とスケジュールで取り組んだ。全体的には、講義形式が11回、学外授業が1回、ワークショップが2回、発表会が1回で構成されており、共通教育科目の総合科目として開講し、公務員や民間企業など三遠南信地域での就職を希望する文学部の所属学生も履修できるよう配慮した。

開催形式については、原則的に座席指定の対面授業であり、三遠南信地域に対して興味や関心を持っている8名の受講生を集めることができ、スピーカーの方々に様々な分野の活動内容を話していただいた。

また、「三遠南信地域の〇〇ツーリズムを企画してみよう」と「軽トラ市が新城市へ何をもたらしたか？」を二題としたワークショップを2回にわたって行った。まず初めに、受講生同士の緊張をほぐすためにグループで簡単な自己紹介を行い、その後、輪になってお互いの感想レポートを共有した。次に、徐助教からワークショップの目標と最終発表会について説明・確認を行なった。さらに、何名かのグループに分かれて、積極的に話し合いが行われた。最後に、成果を共有する発表会では、多くの学生がワークショップに参加したことで仲が深まり、他の提案も知ることができて良かったと話した。それぞれにとって、実に有意義なワークショップになったのではないだろうか。

また、新型コロナ禍でのさらなる良い教育方法やテクノロジーを模索した。今年度は初の試みとして、動画分析ソフトFL-UXを利用し、事業への関心、事業の難易度を評価指標とした評価手法を開発した。来年度も地域の感染状況や、教育効果等を総合考慮し、大学の方針も踏まえつつ、感染対策を講じた上での開催



図1 初回講義の様子



図2 ワークショップ



図3 発表会の様子

を予定する。三遠南信地域の現況と課題を理解し、その解決方法を自ら描くことを目指していく。

表1 2021年度秋学期 共通教育科目 三遠南信の地域経営

開講日		担当講師	講師所属・役職	講演内容
9月17日	金	戸田 敏行	愛知大学 地域政策学部 教授	三遠南信地域連携研究センターのセンター長の戸田先生より、三遠南信地域の概要を紹介していただき、そして三遠南信地域連携研究センターで行われている活動などについて講義をしていただいた。
9月24日	金	原川 知己	三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 事務局長	豊橋市、東三河広域連合、三遠南信 (SENA) の広域行政について、その広域計画の内容等を紹介していただいた。
10月1日	金	藤田 佳久	愛知大学 名誉教授	日本の地理学者、愛知大学名誉教授の藤田先生より、三遠南信地域の歴史を紹介していただき、そして歴史の視点からみた地域の特性と課題などについて講義をしていただいた。
10月8日	金	河原 俊文	南信州新聞社編集局次長 三遠南信Biz編集長 (部長)	地域の課題を解決する報道について講義をしていただき、受講生と一緒に「越境的なメディア」の果たす役割を考えた。
10月15日	金	大滝 重次	株式会社 オフィス大滝 代表取締役	県境を越えたメディア連携における具体的な取組みを紹介していただき、三遠南信地域の将来像と今後の番組の方向性について講義をしていただいた。
10月22日	金	安彦 誠一	一般社団法人奥三河観光協議会 事務局長	「奥三河の観光のこれから (奥三河観光協議会の目指すもの)」として、観光協議会が目指している新しいブランド「okumikawaAwake (心の美つ健康が目覚める新しい旅の目的地)」による奥三河の観光振興のお話とコロナ禍の現状について講義をしていただいた。
11月5日	金	宮川 直樹	豊橋信用金庫 理事・事業支援部長	三遠南信地域における、地域金融機関の役割と豊橋信用金庫の取組みなどについて講義をしていただいた。
11月12日	金	伊藤 拓真	東栄町観光まちづくり協会 職員	東栄町の農村振興に尽力されている経験に基づき、農村社会における課題や利害など地域振興の実態について講義をしていただいた。
11月19日	金	森 一洋 三輪 信之	新城軽トラ市「のんほいロット」 スタッフ会議 リーダー 合資会社三ツ輪呉服店代表 新城軽トラ市のんすけ	軽トラ市の概要と開催状況について紹介していただき、受講生に軽トラ市を活用した地域活性化を考えてもらった。
11月26日	金	徐 非凡	三遠南信地域連携研究センター 研究助教	新城軽トラ市視察
12月3日	金	徐 非凡	三遠南信地域連携研究センター 研究助教	「三遠南信地域の〇〇ツーリズムを企画してみよう」と「軽トラ市が新城市へ何をもたらしたか？」を二題としたワークショップ①
12月10日	金	内浦 有美	株式会社うちら (ぱったり堂) 代表取締役社長	地域の情報発信&人材交流サロンの事業を展開している拠点としての株式会社うちら (ぱったり堂) の社長より、豊橋の魅力的な人・モノ・情報について講義をしていただいた。
12月17日	金	高橋 大輔	公益社団法人 東三河地域研究センター 調査研究室長	レストランバスの取り組みに基づく広域連携のあり方について講義をしていただいた。
12月24日	金	徐 非凡	三遠南信地域連携研究センター 研究助教	「三遠南信地域の〇〇ツーリズムを企画してみよう」と「軽トラ市が新城市へ何をもたらしたか？」の二題によるワークショップ②
2022年 1月7日	金	徐 非凡	三遠南信地域連携研究センター 研究助教	最終成果発表会：4つのグループが発表を行なった。

## ②事業協働応用講座（笹島エリアマネジメント）

名古屋市住宅都市局との連携協定に基づき、全学年全学部を対象とした共通教育科目を開講した。

テーマ：ささしまライブ24地区を中心としたエリアマネジメントの構築と実践

内容：第1回にオリエンテーションとまち歩きを実施し、ささしまライブ地区の歴史や特性について、名古屋市ささしまライブ総合整備事務所職員から説明を受けた（図1）。第2回は、まち歩きをふまえ、ささしまライブ地区内を撮影した空間動画を分析することで、地区の強みと弱みを抽出し、グループディスカッションと発表を行った（図2）。第3回は、外部講師としてまちづくりコンサルタントを招聘し、エリアマネジメント概論を学んだ。第4回はささしまライブ地区内事業者として中京テレビ放送株式会社から外部講師を招聘し、地区の特性やささしまライブまちづくり協議会としての活動について学び、今後の目指すささしまライブ地区の姿を考えた。

第5回、第7回、第8回、第9回、第10回は名古屋市担当の回として、名古屋のまちづくりの歴史、都市計画マスタープランやリニア関連の再開発などの計画、土地地区画整理や市民参加などの制度等、名古屋市のまちづくりについて多面的に学んだ。

第6回は、第4回アシタシアサロンに参加し、レポート提出することとし、ささしまライブ地区立地事業者の事業内容を知り、地区名にもなっている「ライブ」の意味について考えた（内容はp55～56参照）。

後半の第11回から第14回では、グループワークによって、目指すささしまライブ地区のすがたとその実現のために学生が主体となって参加できるエリアマネジメント活動の具体案を考えた。グループごとにプレゼンテーションシートをまとめ、第15回でグループ発表および講評を行った。講評には愛知大学教職員の他、名古屋市職員、ささしまライブ地区内事業者が参加した。また、発表の様子はライブ配信し、配信動画に対して動画分析ソフトを使用してタグを付けることで、遠隔参加者もライブで評価に参加した。

全学部、全学年からなる履修生同士はほぼ初対面であったが、グループで話し合う機会を多く設けることで、協力し合って最終成果をまとめることができた。コミュニケーションツールとしての動画分析ソフトの活用についてはp74～75にも記載した。



図1 ささしまライブ地区まち歩き



図2 グループでの動画分析とディスカッション



図3 最終回のグループ発表



図4 最終発表に対する遠隔からの講評

表1 2021年度秋学期 共通教育科目 笹島エリアマネジメント

開講日	担当講師	講師所属・役職	講演内容	
4月13日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学/ 名古屋市 住宅都市局	オリエンテーション：ささしまライブ地区の概要、私立大学研究ブランディング事業の内容、ささしまライブ地区内のまち歩き。
4月20日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学	エリアマネジメント概論_その1：ささしまライブ地区の強み・弱みについて、動画分析ソフトを使用したグループディスカッションと発表。
4月27日	火	藤森 幹人	株式会社対話計画	エリアマネジメント概論_その2：エリアマネジメントの目的、方法についての概論と、全国で実践されているエリアマネジメント活動の事例についての講義。
5月4日	火	元木 敬文	中京テレビ放送株式会社	エリアマネジメント事例研究1：地方放送局の事業内容と社会的役割、放送局が立地するまちとしてのささしまライブ地区の特性と目指す将来像や課題についての講義。
5月11日	火	名古屋市 住宅都市局 ささしまライブ24総合整備事務所/ 都市計画課		<前半>ささしまライブ地区のまちづくりと将来：笹島貨物駅の開業から現在に至るまでの、ささしまライブ地区の開発の経緯と今後の目指す方向についての講義。 <後半>名古屋市の成り立ち：名古屋市が現在のまちの姿に至るまでの歴史的背景と都市計画についての講義。
5月18日	火	名古屋市 中村区役所/住宅都市局		<前半>中村区のまちづくり：名古屋駅およびささしまライブ地区が位置する中村区の特徴や中村区地域力推進室の取り組みについて。 <後半>リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅周辺のまちづくり：リニア中央新幹線の開業に伴って変化する名古屋駅周辺の現状と将来構想についての講義。
5月25日	火	愛知大学/ ささしま地区周辺企業		ささしまライブ地区内事業者が登壇するシンポジウム、第4回アジアサロン「エンターテインメントと大学の越境対話－コロナ禍における名古屋のライブエンターテインメントをささしまで考える！」に参加。
6月1日	火	名古屋市 防災危機管理局		南海トラフ地震への対応、都心部の災害リスク及びその対応策：大都市が抱える災害リスクについてと、非常時を想定したまちづくりについての講義。
6月8日	火	名古屋市 住宅都市局 名港開発振興課/都心まちづくり課		<前半>ベイエリアにおける賑わいづくりと連携：中川運河を經由してささしまライブ地区と接続する名古屋港エリアのまちづくりの現状と将来計画についての講義。 <後半>栄地区のまちづくり：名古屋駅前と並ぶ名古屋の中心地として再開発がすすむ栄地区のまちづくりについての講義と小ワークショップ。
6月15日	火	名古屋市 住宅都市局 まちづくり企画課/都市景観室		<前半>地域まちづくりの進め方：市民が主体となって実践される地域まちづくりの考え方や、それをサポートする行政の仕組みについて。 <後半>エリアマネジメントとしての景観まちづくり：地域の価値を向上させる景観の概念と、名古屋で実践されている景観まちづくりの取組みについて。
6月22日	火	内山 志保 戸田 敏行 永柳 宏	愛知大学/ 三菱UFJリサーチ& コンサルティング	エリアマネジメント事例研究2：学生が主体となって参加するエリアマネジメント活動の事例についての講義。講義内容を聞きながら、関心を持った内容について動画分析ソフトを使用してタグ付けし、次回のグループディスカッションおよび最終プレゼンテーションシート作成の際の基礎知識とする。
6月29日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学	エリアマネジメントワークショップ1：ささしまライブ地区の特性を整理し、これから目指すささしまライブ地区のすがたを考える。
7月6日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学	エリアマネジメントワークショップ2：目指すささしまライブ地区のすがたを実現するために、学生が主体となって取り組める具体的な活動内容を考える。
7月13日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学	エリアマネジメントワークショップ3：グループごとにプレゼンテーションシートを作成。
7月20日	火	内山 志保 戸田 敏行	愛知大学/名古屋市住宅都市局	最終発表・講評：グループごとにプレゼンテーションシートにまとめた提案内容の発表と、他のグループの発表内容の評価。三遠南信地域連携研究センター教員、研究員、名古屋市職員、ささしまライブ地区内事業者による評価と講評。

## (2) GISを用いた地域研究テキストの発刊

愛知大学のGIS研究は、2008年ごろ愛知大学三遠南信地域連携センターにてはじまった。研究の初期段階から「地域に根差したGIS研究」というコンセプトを掲げて、中部地域を対象に自動車産業と地域防災を中心に研究が行われた。

三遠南信地域連携センターで進めてきた「三遠南信地域における『地域連携型GIS』の研究」は、2010年に文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された。それを契機に、三遠南信地域連携センターは、GIS学術研究、GIS人材育成とGISによる地域貢献の三つの柱で活動を展開してきた。

2011年4月愛知大学の豊橋キャンパスにて地域政策学部が新設された。それに伴い、2011年から表1に示した「GISカリキュラム」の実施をはじめた。このカリキュラムは、日本地理学会の資格専門委員会から、「GIS学術士」資格の認定科目として承認された。

このGISカリキュラムには5つの区分を設け、計8つの科目を設置している。学生は在学中に、その中から最低5つの科目を選択履修し、一定の成績を取れば、卒業後に「GIS学術士」の資格を取得できる。

GISカリキュラムの実施に伴い、2019年に「地域研究のための空間データ分析入門－QGISとPostGISを用いて」（以下「入門編」とし、著者蔣湧、湯川治敏、駒木伸比古、飯塚隆藤、村山徹、小川勇樹）を発刊した（図1の左側）。このテキストは2部構成の演習形式でGISの基本を紹介する。その第1部は「GIS演習Ⅰ」の内容に対応し（表1）、QGISを用いた地図作成や空間分析の基本を学ぶ。第2部は「GIS演習Ⅱ」の内容に合わせ、QGISと空間データベースPostGISを用いた空間分析の基礎を紹介する。

「入門編」は、地域研究の事例を通して、演習形式でQGISの使い方を紹介する。研究事例と演習に使われるデータのほとんどは地元豊橋市を題材にしたものであり、その内容は地域歴史、地域観光、地域商業、土地利用、まちづくり、地域防災まで及ぶ。

「入門編」に引き続き、2022年に「地域研究のための空間データ分析 応用編－QGISとPostGISを用いて」（以下「応用編」とし、著者蔣湧、駒木伸比古、飯塚公藤）を発刊した（図1の右側）。「応用編」は9章で構成され、9件の研究事例をとりあげている。研究事例のいずれも、地域政策学部卒業生の卒論研究や執筆した教員の個人研究によるものであり、その内容は「まちなか」、「歴史」、「防災」、「産業」、「道路」の5つの研究分野に及ぶ。「応用編」は、主に「地域政策とGIS活用」と「GIS卒業研究」の講義に、参考教材として利用される（表1）。

今後、こうしたGIS担い手の育成事業を、行政職員に向けて進めていくことが期待される。



図1 テキスト「地域研究のための空間データ分析」

表1 愛知大学地域政策学部のGISカリキュラム（2011年～2022年現在）

区分	科目名	履修開始年次	履修形態	対応のGISテキスト
A	プログラミング	1年次春学期	A区分の選択履修	
	社会データ分析入門	1年次春学期	A区分の選択履修	
	マルチメディア表現	1年次春学期	A区分の選択履修	
B	GIS概論	1年次秋学期	必修	
C	GIS演習Ⅰ	2年次春学期	必修	『入門編』の第1部
D	GIS演習Ⅱ	2年次秋学期	D区分の選択履修	『入門編』の第2部
	地域政策とGIS活用	2年次秋学期	D区分の選択履修	『応用編』
E	GIS卒業研究	2年次秋学期	必修	『応用編』